

プロペラシャフトジャーナル点検

プロペラシャフトの点検・整備を怠ると、走行中の異音や振動だけでなく、プロペラシャフトの破損や脱落など、重大故障や事故に繋がるおそれがあります。

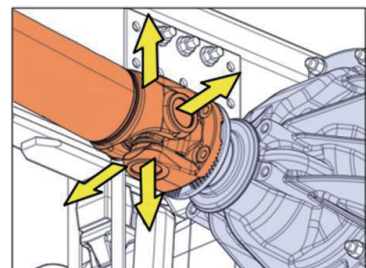
ここでは、大型2017年式クオンのプロペラシャフトにおいて、プロペラシャフト破損・脱落防止のために特に重要なジャーナル部の点検、給脂について、注意事項を展開します。
*2014年式以前の車両については、各車両の取扱説明書、メンテナンスノート、整備要領などを参照願います。



■ ガタ点検 法定点検 12か月毎

右図矢印方向のガタを点検してください。

- ガタ点検は給脂前に実施して下さい。給脂するとガタが検出し難くなる場合があります。
- 車載状態でジャーナル部を右図上下、左右方向に動かしてガタ量が0.3mm未満であることを確認してください。
(次頁に点検手順記載)



■ 給脂メンテナンスについて

- ・5,000km又は6か月毎(いずれか早く到達した時点)に給脂を行ってください。
後2軸駆動車は、前側プロペラシャフトと併せ、後軸間プロペラシャフトも忘れずに実施してください。
- ・グリースはUD純正ベアリンググリースを使用してください。
※プロペラシャフトには、必ずリチウム系ベアリンググリースを使用して頂き、絶対にシャングリースや他の種類のグリースは使用しないでください。
シャングリースなどは使用温度範囲が低いため、ジャーナルの摩耗や焼付きの原因となります。
- ・グリース給脂時の注意点詳細は次頁参照願います。
グリース給脂時、新しいグリースを注入して、古いグリースが入れ替わって新しいグリースが出てくるまで確認願います。もし、古いグリースが出てこない場合、ジャーナル内部に何らかの異常が発生している可能性があります。

- ◆ 上記1,2項で異常が発見された場合、または明らかにジャーナル部に損傷がある場合は、ジャーナル内部ベアリングに何らかの異常が発生している可能性がある為、プロペラシャフトもしくはジャーナル交換を行ってください。

1 項補足 上下左右方向のガタ測定手順

① マグネットスタンドをチューブヨークに取り付け、ダイヤルゲージの先端がフランジヨークに当たるよう調節する。

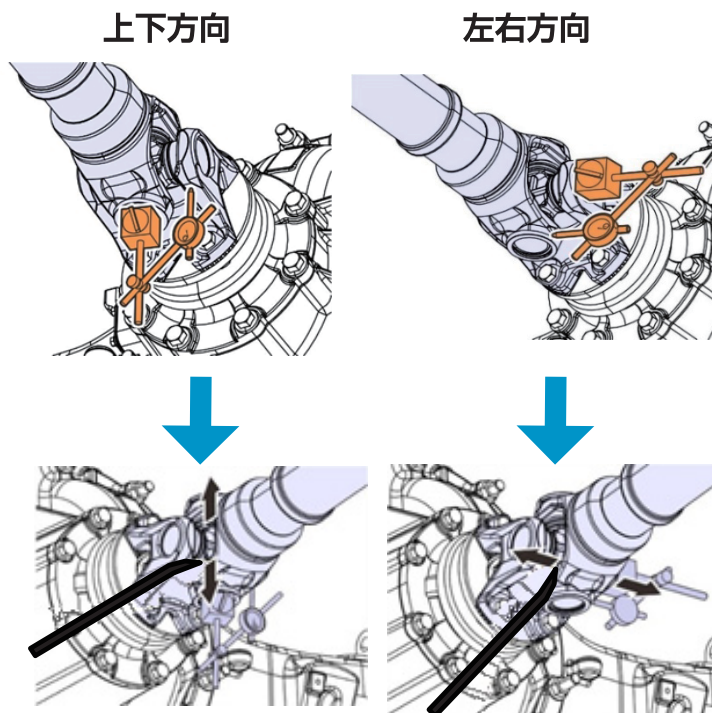
② ヨークの間に工具を差し込んでヨークを動かし、ガタを測定する。

注意

タイヤレバーなどの先端が鋭利ではないものを使用する。その際、プレシールを破損しないよう、十分に注意する。

③ ジャーナル部のガタ量が0.3mm 以上の場合は、ジャーナルが摩耗している恐れがあるため、ジャーナル又はプロペラシャフトを交換してください。

許 容 値	
ジャーナル部のガタ量	0.3mm 未満



2 項補足 グリース給脂時の注意事項

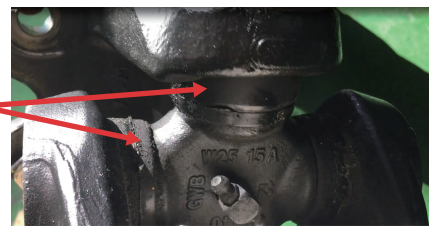
① 給脂開始前に、グリースニップル部の泥やほこりをふき取ってください。

② 給脂は、4カ所のプレシール部分すべてから古いグリースが排出され新しいグリースがはみ出るまで行ってください。グリースがはみ出てこない場合や水、錆び、泥が排出された場合は、シール破損やジャーナル摩耗の可能性がありますので、ジャーナルまたはプロペラシャフトを交換してください。

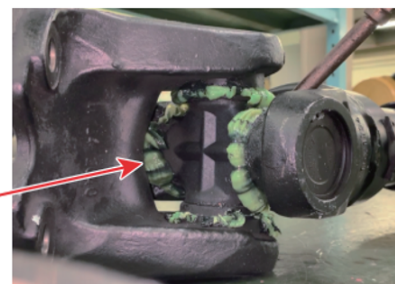
③ 給脂量の目安はグリースガンで10～15ストローク（約15g）です。給脂後、溢れ出たグリースはふき取ってください。

④ グリースはUD純正ベアリンググリースを使用してください。

ガタ点検でタイヤレバーなどを当てる際、このプレシールを傷つけないよう注意

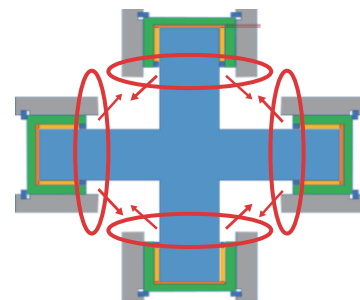


古いグリースが最初にはみ出て、最後新しいグリースになるまで確認



溢れたグリースはふき取ること

ジャーナル4か所ともグリースがはみ出るのを確認



おことわり

メンテナンスにおいて、UDトラックが指定する整備条件やメンテナンスノートに記載の点検整備を怠ったために生じた故障・事故については、保証の対象になりませんのでご注意ください。